

令和6年1月9日(火)、新学期がスタートしました。

寒さ厳しい中、体育館で始業式が行われました。最初に、久しぶりにピアノ生伴奏で県民歌・校歌を歌いました。そのあと、校長先生から能登地方の地震、羽田空港の航空機と海保機の事故について、ご冥福を祈るとともに皆さんと一緒に心を寄せていきたい、また新しい年を素晴らしい年にするためには自覚と努力が必要であり、「継続は力なり」という言葉があるように、諦めず努力して欲しいと話されました。3年生に対して、今週末に行われる共通テストに向けて、自分を信じベストを尽くし、残りの学校生活を悔いが残らないよう過ごしながら後輩達にその姿を見せて欲しい、全体には、一日一日を大切に、体調管理に気をつけながら目標実現に向かって充実した年になるようにして欲しいと話されました。

進路部長講話では、福島第一原子力発電所へ実際に行かれた体験談を話され、13年たった今も町の様子はそのときのままであり、瓦礫の山や止まったままの時計、立ち入り禁止の看板など現状を目の当たりにして「百聞は一見にしかず」であること、一步踏み出すことで人生観が変わったことを話されました。

